

## 登山学校レポート（第2回講習）

氏名（南家弘毅）・所属会（福岡アゼリア山の会）

### 1. 日程及び場所

2023年6月10日（土） 大分県豊後高田市の「こっとな村」東屋周辺

11日（日） 同上の鬼城

### 2. 出席者

○受講生9人

○講師7人

### 3. レポートのテーマ

#### （1）講習項目

##### 1日目：【ロープワークの復習】

- ・ロープの末端をハーネスにセット（エイトノットを使用）
- ・上からつるしたカラビナにロープを通し、クローブヒッチで固定し不動を確認
- ・同じくカラビナに、ロープをムンターヒッチで結び、可動を確認
- ・もやい結びを習う
- ・懸垂下降（ラッペル）を想定し、ロープにプルージックとクレイムハイトを細引きで作る
- ・傾斜がほぼない場所で懸垂下降の流れをシミュレーション（セルフビレイ→ビレイデバイスをセット→バックアップのためクレイムハイトをセット→ロープのテンションを確認→ランヤードを解除→下の人に声掛けして下降）
- ・下からのロープ回収で、アンカーにした樹のコブなどにロープが引っ掛からないようにするため、2本を結び合わせたどちらのロープを引くか覚えておく

##### 2日目：【地図読み】

- ・Bチームとして、並石ダム湖の西の淵から鬼城の岩峰尾根まで、先頭を歩くリーダーを交代しながら、地図とコンパスだけを使って読図、ナビゲーション
- ##### 【鬼城の岩峰縦走】
- ・Bチームとして、リスクの高そうな岩峰を三点支持はもちろん、懸垂下降など1日目におさらいしたロープワークをフルに使い、セコンド以下として安全に上り下りした
  - ・懸垂下降をする人の確保

#### （2）受講結果の報告と今後の課題

##### 《結果の報告》

- 2日目の縦走では、想像以上にやせた尾根で高度感たっぷりの箇所がいくつもあったが、全員けがなく無事に下りてこれてよかった。

- 私自身は、細く不安定な尾根を 15 メートルほど懸垂下降で下りる場面で、残り 5 メートルを切った大岩の下部で左足が斜面に着かず、ロープを左に大きく振り数秒間宙に浮いた。焦りと怖さがどっときた。原因は、ロープをスムーズに流すことにばかり意識が働き、足元を注意深く見てなかったこと。下でバックアップしてくれていた講師にご迷惑をかけてしまった。
- 高さ 15 メートルほどの岩峰を上る際、先行する A チームが 1 人上がるごとに上からロープを投げていた。ところが、南東の風がかなり強く、投げたロープが大きく流れ投げ下ろしに時間を食っていた。それを見ていた B チームの講師が「うちはそのやり方ではなく、2 人目あるいは 3 人目まで、ロープの途中に作るエイトノットをハーネスのカラビナに掛けて上がってはどうか。ロープの残りの長さを見てロープダウンしよう。その方が時間節約になる」と説明。その場に応じた臨機応変なやり方を繰り出すことの大切さや、そのためには基本技術の一つ一つ確実に覚えることが大切だと、改めて感じた。
- 地図読みでは、大まかな現在地を把握しながら谷筋を上れていた。しかし、尾根筋への最後の上がり口では、地図上で目印になると目を付けていた岩峰が樹林に覆われ不明瞭だったこともあり、少し戸惑った。

#### 《今後の課題》

- セルフビレイを取る時に、スリングで作ったランヤードが長すぎ、狭い尾根での作業時にランヤードにテンションをかけるスペースが作れてないシーンがあった。ランヤードの長さ調整を自在にできるようにはなくてはならない。
- 懸垂下降が非常に大事なスキルだと、今回の岩稜縦走で痛感した。足元にも手にも注意を払い、安定的に下りられるようにしたい。
- ハーネスに掛けているカラビナ 1 個につき、スリング 2 本とかスリング&細引きが掛かる状態になっており、作業に無駄な時間が発生していた。カラビナを買い足し、「カラビナ 1 個にスリング 1 本」で次回は臨む。
- ロープワークを必要とする場面では、作業の確実性が大事だけれど、それに要する時間をいかに短く効率よくするか、も問われてくるのを知った。その意識をインプットして臨みたい。
- 肩絡みの確保の仕方と、スリングを複数組み合わせる岩に掛ける作業に目がいってなかった。そのやり方講師に聞いて自分の技術にしたい。

## 登山学校レポート第2回講習（ロープワーク②）

氏名（横山淳子）所属会（アゼリア山の会）

1 令和5年5月10日11日 国東半島・鬼城

2 参加者 受講生、講師

3 受講内容

### ◎ロープワーク①の復習（東屋、坂道にて）

- ・ロープワーク（エイトノットは綺麗に結ぶと荷重がかかっても解きやすい）
- ・懸垂下降
- ・ムンターヒッチにて上げる、下ろす

### ◎地図とコンパスを使用した読図（鬼城）

- ・予め地図に尾根、谷、標高、磁北線を記入しビニール袋に入れたものを2部準備する
- ・グループ内で標高を合わせておく
- ・現在地を知る（コンパスと地形、標高から）
- ・進行方向を決める（地図上でコンパスの長辺を現在地と目的地に合わせ、リングを回して矢印と磁北線を平行にし、コンパスを体の正面で構えリングの矢印が磁北線重なるまで体を回し、ベースの矢印が進行方向。メンバーで数値の確認をする）

### ◎鬼城バリエーション

- ・懸垂下降（下に下ろすロープの末端処理は30cm残す、声を掛け合う）
- ・セルフビレイをとる
- ・エイトノットとカラビナで確保し岩を登る

### 〈所見〉

ロープワークでは一か月前に学んだ事が出来ず、繰り返しの練習の必要性を感じた。

読図では谷と尾根が理解出来ていなかった。他の受講生の完成度の高い地図を見て驚いた。

今後山行時に地図とコンパスを持参する事から始めたい。

バリエーションの実践では、高度感はないが緊張感のある岩登りクライムダウンであった。

山行中、装備の事など講師の方からアドバイスをいただき、装備の配置などが安全に繋がると実感した。

二日間講師の方、受講生の皆さんありがとうございました。

今回の学びを次回に繋げていきます。

沢山助けていただいてありがとうございました。